

涼しい風が吹く日が増え、秋を感じる事が多くなってきましたね。中間考査が終わり、一息つける時間も増えたのではないのでしょうか。図書室でお気に入りの本を探して、ゆったりとした「読書の秋」を過ごしませんか。皆様のご来館をお待ちしております。



海にはワニがいる 著者:ファビオ・ジェーダ 訳:飯田亮介 出版社:早川書房

この本の内容は主人公であるエナヤットが孤独と苛酷である中、生きる場所を求めてイラン、トルコ、ギリシャと国境を越える物語だ。アフガニスタンから命がけで逃げ出し、いくつもの国を渡ってイタリアへたどり着くまでの旅は、現実とは思えないほど壮絶だった。途中で裏切られたり、暴力にさらされたり、肉体も精神も極限の密入国を繰り返したりと想像を超える体験をしていたが、それでも希望を捨てずに進む姿からは勇気がもらえる。この本を通じて、難民として生きることの苦しさや不安がはっきりと伝わってきた。そして自分がどれほど安全で恵まれた環境にいるかを改めて考えさせられた。家族とは、国境とは、安全な地とは何かを考える機会にもなった。読後、私の心には「共感」と「行動」の二つの言葉が残った。

遠い国の話だとしても人としてのつながりを忘れずにいたいと思った。世界二十七か国で読者の心を動かしている本なので、ぜひ読んでみてほしい。

(担当:門田)



夜が明けたら、いちばんに君に会いに行く 著者:汐見夏衛 出版社:スターツ出版



私のおすすめの本は、「夜が明けたら、いちばんに君に会いに行く」という本です。映画にもなった青春ストーリーです。高校2年生の丹羽茜と深川青磁がお互いの秘密を打ち明けながら絵を通して距離を縮めていきます。最初は二人共「大嫌い」の気持ちが「大好き」に変わっていくと同時に、タイトルの意味を知ることになる！ドキドキとハラハラがつまった1冊です。青磁はなんでもストレートに言う一方で、茜は自分の気持ちを塞ぎ込んで言いたいことを言えない真逆の二人。そんな二人がゆっくり時間をかけて仲を深めていく感じが最高です！ラブストーリーが好きな人や読んでみたいと思った人は、図書室で借りることができるのでぜひ手に取って読んでみてください。

(担当:藤原)

文化祭で行う古本市について、お知らせがあります！裏面もチェック！

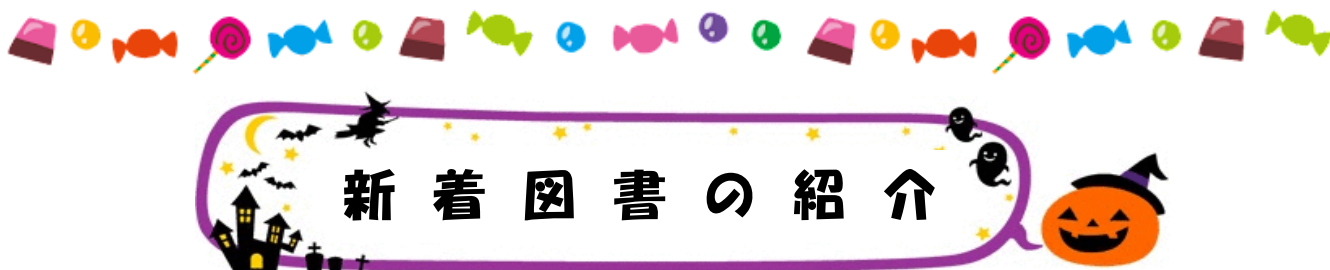




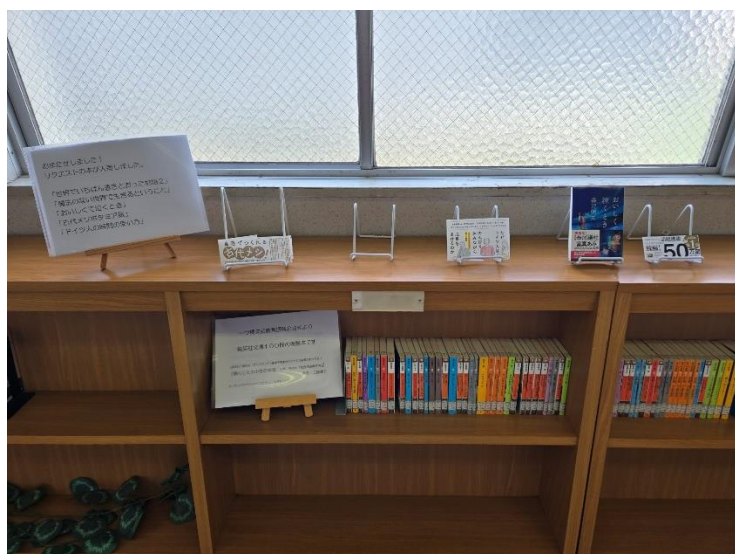
図書委員会では、文化祭で古本市を企画しています。

今は読まなくなった本がお家に眠っている方、古本市に寄贈して、新しく読んでくれる人の元へ本を届けませんか。寄贈してくださった方には、文化祭当日に使える無料券を5冊につき1枚プレゼントします！古本の寄贈は10月31日まで受け付けています。図書室まで届けてもらうか、クラスの図書委員に預けていただいても構いません。ご協力お願いします！

古本市では、1冊100円で販売予定です。売り上げは、図書室の蔵書の購入に使わせていただきます。小説、漫画、実用書など様々な本を寄贈していただいているので、ぜひ掘り出し物を探しに来てください！



本の名前	著者名	本の名前	著者名
世界でいちばん透きとおった物語 2	杉井 光	魔法のない世界で生きるということ	原案：秋鷲 著：岩佐まもる
おいしくて泣くとき	森沢 明夫	古代メソポタミア飯	遠藤 雅司
ドイツ人の時間の使い方	松井 温子		



☆図書館で購入のリクエストがあった本も、新しく購入しました。早速貸し出しがあります。集英社文庫100冊も好評です。気になる本がある人は、ぜひ読んでみてください！

